JSET NEWS LETTER
Japan Society for Educational Technology
日本教育工学会ニューズレター NO.253
ISSN 2435-239X

INDEX

法人化２年目の学会運営について……02
日本教育工学会 2022 年春季全国大会（第 40 回）の報告……04
2022 年秋季全国大会のお知らせ（第一報）……07
研究会の参加募集「教員養成・研修と ICT 活用／一般」……09
国際学会 ICoME 開催のご案内……11
SIG-CL「学びにおける equity（公正）のあり方」開催報告……12
SIG-CL『国際学習科学学会 広島大会』ローカルイベントのお知らせ……13
第 19 期第 12 回理事会報告……14
第 19 期第 13 回理事会報告……16
第 38 回代議員総会議事録……18
学会ホームページの更新情報について……19
新入会員（2022 年２月２日～ 2022 年３月７日）……20
学会日誌……21

事務局●〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル8階
TEL 03-5549-2263
FAX 03-5575-5366
日本教育工学会ホームページ https://www.jset.gr.jp
e-mail:office@jset.gr.jp

法人化２年目の学会運営について

日本教育工学会　会長　堀田龍也（東北大学）

ニューズレター248 号の巻頭に会長就任のご挨拶を掲載いただいてから，およそ１年が経過しました．その後，ニューズレターの巻頭挨拶を「副会長挨拶シリーズ」と題し，249 号は総務・広報担当の室田真男副会長，250 号は戦略・国際担当の美馬のゆり副会長，251 号は編集担当の山内祐平副会長，252 号は会員サービス向上担当の村上正行副会長から，各副会長が所掌している関連委員会等の解説を中心にご説明をいただきました．

学会のスムーズな運営のために，裏方としてボランティアで動いてくださっている委員の方々がたくさんいます．各種委員会で審議・調整されている事項のすべてが公表されるわけではありませんし，常にいくつものイベントが同時並行で動いておりますので，会員のみなさまからは各種委員会の動きが見えにくくなっていることもあるでしょう．「副会長挨拶シリーズ」では，委員会活動を所掌している副会長から，会員のみなさまに活動状況を直接伝えていただきました．執筆いただいた４名の副会長にはもちろんですが，各種委員会でたくさんの任務を遂行していただいている委員長はじめ委員のみなさまにあらためて感謝申し上げます．会員のみなさまには，ぜひ学会 Web サイトから会長・副会長挨拶のバックナンバーを再度ご参照いただき，学会の各業務に対するご理解を深めていただければ幸いです．

この１年は，一般社団法人となった日本教育工学会の最初の１年でした．新しいルールに基づいた運営は総務委員会に大きな負担をおかけすることになりましたが，おかげさまで法人としての規定整備をはじめ順調に運営なされております．今後，法人化後の初めての役員選挙があり，選挙管理委員会による準備がスタートしております．

将来構想 WG から 2020 年 11 月にいただいた答申をもとにした学会の運営改善として「重点活動領域委員会」が設置され，「情報教育部会」，「学習環境部会」，「学習評価部会」が発足しました．重点分野における個別の研究成果を束ね，学術的な前進だけでなく社会貢献に寄与し，加えて学会としてのプレゼンスを高めることを目指し，部会の代表やコアメンバーを中心に活動を展開しています．また，会員からの提案で進める研究活動として，５つの SIG が再スタートしており，他国との国際的な研究連携にも繋がっています．これらの研究成果が日本教育工学会論文誌や英文誌”Information and Technology in Education and Learning”（ITEL）における個別の論文となり，J-Stage 等によって広く参照・引用されることによって，研究成果同士の結び付きが強くなり，教育工学分野の研究のさらなる活性化が図られることとなります．

全国大会の２回化もすっかり定着しました．「ゆったり発表」を目的とした春季大会，「じっくり議論」を目的とした秋季大会といった性格付けを守りつつも，春季大会と秋季大会の連携および包括的な運営を目指しています．年に４回の研究会は「年間パス制度」を導入したことにより，会員のみなさまにとって複数回の参加がしやすくなっています．研究報告集の J-Stage での公開によって，最新の研究成果を追跡しやすくなりました．全国大会と研究会に参集することによって会員同士のつながりが生まれたり，さらに深まったりするように，今後は可能な範囲で対面での開催に舵を切りつつ，オンラインの良さを最大限に活かした運営方法を模索中です．開催会場の制約等があるため，理想的な運営が行われるまではまだ少し時間がかかりますが，関係委員会の委員のみなさんが議論を重ねておりますので，会員のみなさまにもご理解とご協力をお願いします．

学会の関連情報を会員にいち早く提供する方法も広報委員会を中心に模索されております．今後は学会 Web サイトを中心に情報が届けられますし，更新情報については JSET の Facebook や Twitter 等で受け取ることができます．ニューズレターのメールマガジン化も進められております．

法人化後の１年間のさまざまな取り組みを記してきましたが，学会運営における課題はまだいくつもあります．そのうちもっとも大きく深刻な課題は，理事・代議員，各種委員会の委員等のみなさんに対する学会運営の負担の増大です．多くの委員が，他学会でも役員や委員を務めている現状があります．学会にはサービス向上を目指し続ける宿命がありますが，一方で持続可能な運営方法であるこ

とやコストダウンが求められます．今後は，近接学会との積極的な連携により，研究交流による教育工学分野の活性化と同時に，合理的な連携運営等についても検討が必要と考えております．このことを含め，本学会の今後の在り方について，中長期的な見通しを検討していくことが課題だと会長としては認識しております．

COVID-19 もやや沈静化が進んでいる状況です．会員同士の対面でのディスカッションの機会が戻ってくる年になりそうです．みなさま，今年度も学会運営へのご協力をよろしくお願いします．

日本教育工学会 2022 年春季全国大会（第 40 回）の報告

大会企画委員会委員長　森田裕介（早稲田大学）

日本教育工学会 2022 年春季全国大会（第 40 回）は，2022 年 03 月 19 日（土）～20 日（日）の２日間にわたり，オンラインで開催されました．本大会の運営をお引き受けくださった鳴門教育大学の藤村裕一大会実行委員長，泰山裕大会企画委員会副委員長をはじめ，大会実行委員会の川上綾子先生，藤原伸彦先生，江川克彦先生，林向達先生らの多大なるご協力を賜り，無事に会期を終えることができました．この紙面をお借りして，あらためて厚く御礼を申し上げます．

さて，2022 年春季大会は，昨年度に引き続いての オンライン開催となりました．191 件の発表，１件の自主企画セッション発表が行われ，525 名の方にご参加をいただきました．特に，シンポジウムに関しましては，Webinar での視聴者は 197 名，YouTube 配信での視聴者は 100 名と多くの方がご視聴くださいました．また，今大会では，昨年に引き続き，全国大会ウェブサイトにおけるバナー広告の設置や，協賛してくださった企業の PR タイムを実施いたしました．バナー広告には９社，企業 PR タイムには５社からご応募をいただきました．ご発表いただいた会員の皆様，協賛くださった企業の皆様に感謝の意を表したく存じます．

大会企画や運営に関しましては，46 名の参加者の皆様から大会参加者アンケートにご回答いただきました．集計結果から，オンライン開催全体について，非常に満足・やや満足と評価してくださった参加者は，86.9%となっておりました．理由として，「家庭の都合で，現地開催だと参加が難しかったが，オンラインのおかげで，フル参加が可能となった」「Zoom のブレークアウトルーム活用のほうが色々な発表を見ることができる」などの意見を賜りました．一方で，「対面のように（発表者に対して）気軽に声をかけられない」「一般発表で質疑や意見交換の機会が少ない」といったご意見も賜りました．これらアンケートへの回答につきましては，大会企画委員会内で検討し，次回以降の大会につなげて参る所存です．

2022 年秋季全国大会は，2022 年 09 月 10 日（土）～11 日（日）に，カルッツ川崎を会場とした対面開催とオンライン開催を組み合わせて開催いたします．また，2023 年春季全国大会は，2023 年 03 月 25 日（土）～26 日（日）に東京学芸大学にて開催されます．大会企画委員会では，参加者の皆様の研究･実践に寄与するとともに，会員の皆様が相互につながっていくコミュニティの構築を目指し，よりよい大会運営を行って参ります．是非，ご参加くださいますようお願いいたします．

自主企画セッション

春季全国大会では，昨年度に引き続き，03 月 20 日（日）09:00～10:30 まで，科学研究費補助金等の研究成果の展開を目的に自主企画セッションが開催され，１件の自主企画セッションが開催された．自主企画セッション「行動センシングが開く新たなエビデンスに基づく子どもの学びの理解」では，キャノン財団研究助成プログラム「善き未来をひらく科学技術」に採択された研究プロジェクト「非認知能力の育成環境の解明による人の問題解決能力の向上」に基づく発表が行われた．

まず，認知科学の立場から大森隆司氏（玉川大学）より研究課題の説明とこれまでの研究の経緯，企画セッションの趣旨及び各発表の位置付けについて説明があった．

次に，教育の立場から山田徹志氏（玉川大学）より「子どもの位置と向きから見る活動場の分類と子どもの参加」のタイトルで講演があった．講演では，「関心は学習者の内的状態を顕すもので，行動に顕れる」ということを前提に，保育の活動場面での子どもの関心と行動を人手により記述し，AI により集団活動の分類と個々人の行動を分析することで，子どもの授業参加や特性が推定できることが説明された．

続いて，工学の立場から宮田真宏氏（玉川大学）より「視線分布から見る教室状況と個々人の授業参加」のタイトルで講演があった．講演では，子どもの行動観察のために開発されたセンサーシステムによって得られた映像から，授業中の子ども達の視線を抽出すると，皆が特定のものを見る瞬間があり，そこから子ども個々人の特性がわかり，さらにその縦断的変化も追跡できるということが説明

された．

続いて，工学の立場から丸山真優子氏（玉川大学）より「身体の動きから見る子どもの特性」のタイトルで講演があった．講演では，「身体の動きから，子どもの授業への集中や個人特性が推定できそう」という前提のもと，落ち着きのない子どもは単に体の揺らぎが大きいだけなのか，本当に授業に集中していないのか，AI による画像分析の結果から評価を行った試みについて説明があった．

その後，指定等論が行われ，幼稚園や小学低学年の教育の立場から指摘された本研究プロジェクトへの期待や危惧について，参加者を交えて活発な議論がなされた．

（文責：長濱澄）

SIG セッション

SIG セッションは 03 月 20 日（日）14:10～14:30 に Webiner 上で開催された．SIG セッションでは，まず，永田智子 SIG 委員会委員長（兵庫教育大学）より，特定のテーマに興味・関心を持つ会員がグループを形成し，研究会やセミナー等年間を通して活動を行い，学会員のコミュニティ形成を図る場としての SIG（Special Interest Group）の位置づけが説明され，学会の法人化に伴い 2022 年 01 月より SIG が５つに再編されたことが示された．

続いて，５つの SIG の関係者より，各 SIG の紹介が行われた．「SIG-AI 人工知能の教育利用」については，代表の喜多敏博氏（熊本大学）より，コアメンバーや，過去の活動，AI を用いたワークショップの事例，今後の研究会の予定等が紹介された．「SIG-CL 協調学習・学習科学」については，副代表の大浦弘樹氏（東京理科大学）より，SIG の目的，CSCL の現状，過去の活動や出版物，今後の研究会の予定等が紹介された．「SIG-ID インストラクショナルデザイン」については，代表の高橋暁子氏（千葉工業大学）より，インストラクショナルデザインの概要，SIG の目的，過去の活動，今後予定している定例ゼミ，ワークショップ，ID に関する研究レビュー等が紹介された．「SIG-ML メディア・リテラシー，メディア教育」については，副代表の佐藤和紀氏（信州大学）より，SIG 設立の趣旨，メディア・リテラシーの体系化に関するこれまでの活動や成果，１人１台情報端末自体を見据えた今後の活動予定等が紹介された．「SIG-TL 教師教育・実践研究」については，代表の坂本將暢氏（名古屋大学）より，SIG 設立の趣旨，Teaching & Learning，Teacher Learning，Technology in Learning など，TL という略称に込められた意味，今後の研究会・ワークショップなどの計画等が紹介された．

最後に，重田勝介 SIG 委員会副委員長（北海道大学）より，学会の会員専用ページから SIG に参加する方法について説明がなされ，SIG セッションは終了した．

（文責：松河秀哉）

学生セッション

今春大会でも，教育工学に関わる若手育成，若手研究の奨励を目的として，学生セッションが開催された．このセッションは学生のみで発表者を構成し，通常の研究発表の後，セッション内でディスカッションの時間（20 分間）を設けた．今回は，４つのセッションで計 14 件の発表があった．

発表は，様々な研究テーマで構成され，発表後の質疑応答やセッション最後のディスカッションでは，発表者が抱えている課題への解決案や新たな視点の提供など，様々な視点からのコメントやアイディアが述べられ，今後の研究の発展に寄与する機会となっていた．セッション内にディスカッションの時間を設けることは，今回初めての取り組みであったが，座長をご担当頂いた先生方のご協力のもと，どのセッションでも有意義な意見交換の時間となった．また，ディスカッションの時間を設けることで，１つ１つの発表について時間をかけて議論する様子が見受けられた．

（文責：遠海友紀・辻宏子）

シンポジウム「教育工学における教育実践研究のススメ」

本シンポジウムは，教育工学分野における教育実践研究について，その在り方や方法を改めて議論し，共通認識を高めていくことを目的に二部構成で実施された．第一部は，教育実践研究における実践方法，データ分析，論文化などの悩みやそれを乗り越えるための秘訣について事例をふまえて３名から話題提供をいただいた．第二部では，教育実践研究を論文誌で採用している隣接領域の学会からパネリストをお招きし，学術誌における教育実践研究の意義や位置付けなど，俯瞰的な視点での議論を通して，教育工学における教育実践研究の発展を議論した．本シンポジウムは，全国大会参加者に向けて Zoom ウェビナーを通して配信された他，YouTube Live 上で一般公開され，合計で 300 名を超える参加があった．

第一部「教育実践研究の『質』をあげるために」では，これまで教育実践研究に取り組んでこられた先生方に話題提供いただいた．授業実践を研究としてまとめる際に直面するであろう３つの悩みを軸に，瀬戸崎典夫氏（長崎大学）より「研究方法に関する工夫と悩み」，姫野完治氏（北海道教育大学）より「実践を対象化する際のスタンス・悩み・工夫」，伏木田稚子氏（東京都立大学）より「授業での倫理的配慮の悩みと工夫」のようにそれぞれの経験をもとにして，予想通りにいかない場合の苦労や工夫，そして，それらをどのように乗り越えてきたのか具体的な方法から，その際の心の持ちようまで幅広い話題を提供いただいた．

第二部「教育工学における教育実践研究の発展」では，パネルディスカッション形式で進められた．本学会から山内祐平氏（東京大学），日本教育心理学会から奈須正裕氏（上智大学），教育システム情報学会から三石大氏（東北大学）がそれぞれの学会における教育実践研究の現状や成り立ちを述べた．その後のディスカッションでは，教育実践研究の課題として新規性を担保しつつ，過度な一般化を避け実践の中の価値を表現していくことの重要性について，それぞれの学会におけるこれまでの論文誌の変遷と併せて議論がなされた．

シンポジウム後のアンケートからは「大学の先生方も悩みながら研究を進めるなかで，おもしろさ・ワクワクを伝えたいという想いを持って論文を書かれていることがわかり，自分も論文を書き上げようと思った」「論文化することは，コストもかかることだが，歴史に刻むことであるという内容が印象的でした」のような今後の教育実践研究の推進や論文執筆にむけた前向きな意見を多数いただいた．

限られた時間のなかで６名の登壇者による議論が，今後の教育工学領域における教育実践研究の発展に資する有意義な時間であった．

（文責：今野貴之・大山牧子）

懇親会

大会１日目，03 月 19 日（土）に懇親会が開催された．今回も Zoom を活用したオンライン形式となった．まず初めにランダムブレイクアウトによる少人数の交流を行い，その後，トピック別のルームを作成し，参加者自身がテーマを選択して移動できるように設定し，それぞれの興味に応じて交流ができるようにした．

ランダムブレイクアウトでは，４名程度のグループになり，お互いの研究テーマや業務等についての交流が行われた．その後のテーマ別のセッションでは，「教育工学会のえらい人（自称）とつながりたい」「実践研究について話したい」「学生・院生部屋」などのテーマが設定され，それぞれの興味に応じたテーマごとに活発な交流が行われた．

少人数でのランダムブレイクアウトによって，交流関係を広め，テーマごとのブレイクアウトルームでより深い交流が促されており，どのテーマでも最後まで交流が深められていた．

（文責：泰山裕）

2022 年秋季全国大会のお知らせ（第一報） https://www.jset.gr.jp/taikai41/

日本教育工学会 2022 年秋季全国大会を下記のように開催いたします．今回は対面（川崎会場）とオンラインのハイブリット開催の予定です．一般発表（ポスター発表）はオンデマンド型と現地会場での発表の２つの方法で実施いたします．会場の広さや with コロナでの大会を検討した実施となります．参加方法は，対面，オンライン，発表はオンデマンド型とありますので，多くの方々の研究発表・ご参加をお待ちしています．最新情報は大会 Web サイトに順次掲載いたしますのでご確認ください．

1. 開催期日・会場

期日：2022 年 09 月 10 日（土）～11 日（日）
会場：カルッツかわさき&オンライン

2. 大会日程

09 月 10 日（土）	09 月 11 日（日）
09:30～10:00 チュートリアルセッション１ 10:10～11:00 ポスター発表コアタイム１ 10:10～11:10 企画セッション１ 11:20～12:10 ポスター発表コアタイム２ 11:20～12:20 企画セッション２ 12:10～13:40 昼食 13:40～14:30 全体会 14:50-15:50 キーノート 16:00-18:00 シンポジウム１	09:30～10:00 チュートリアルセッション２ 10:10～11:00 ポスター発表コアタイム３ 10:10～11:10 企画セッション３ 11:20～12:10 ポスター発表コアタイム４ 11:20～12:20 企画セッション４ 12:10～13:40 昼食 13:40～14:10 チュートリアルセッション３ 14:30-17:00 シンポジウム２ 17:00～17:10 クロージングセレモニー

3. 今大会での注目点・注意点

・ 対面とオンラインのハイブリッド開催となることふまえ，オンラインでの一般研究発表（ポスター発表）オンデマンド型で行います．
・ 秋季全国大会の一般研究発表は，ポスター発表のみです．対面およびオンラインでの発表方法についての詳細は Web でご確認ください．

4. 大会までのスケジュール

・ 発表者のスケジュール

一般研究発表申込・原稿（２頁）提出	05 月 17 日（火）～06 月 21 日（火）17 時
参加費送金（早割価格）	05 月 17 日（火）～06 月 21 日（火）17 時
プログラム決定・発表者に通知	07 月 19 日（火）
ポスター，オプション（映像・URL）の登録	08 月 23 日（火）～09 月 05 日（月）17 時（予定）
2021 年秋季全国大会講演論文集のダウンロード開始	09 月 02 日（金）
大会 Web サイトの公開	09 月 05 日（金）（予定）
大会 Web サイトの閉鎖	10 月 16 日（日）（予定）

・参加者（発表者以外）のスケジュール

参加費送金（早割価格）	05 月 17 日（火）～06 月 21 日（火）17 時
参加費送金（一般価格）	06 月 21 日（火）17 時 ～09 月 09 日（土）14 時 30 分
2021 年秋季全国大会講演論文集のダウンロード開始	09 月 02 日（金）
大会 Web サイトの公開	09 月 05 日（金）（予定）
大会 Web サイトの閉鎖	10 月 16 日（日）（予定）

5. 問い合わせ先

大会全般に関しては，以下にお問い合わせ下さい．

大会企画委員会（秋季全国大会）問合せ用電子メールアドレス　a-taikai2022@jset.gr.jp

委員長　森田裕介（早稲田大学）

副委員長　根本淳子（明治学院大学）
大久保昇（内田洋行）

幹事　伏木田稚子（東京都立大学）
金子大輔（北星学園大学）

委員
(五十音順)
板垣翔大（宮城教育大学）
石井雄隆（千葉大学）
坂井裕紀（武蔵野学院大学）
坂本將暢（名古屋大学）
佐藤慎一（日本福祉大学）
倉田　伸（長崎大学）
小林由昭（内田洋行）
近藤秀樹（神田外語大学）
福山佑樹（関西学院大学）
中嶌康二（関西国際大学）

担当副会長　村上正行（大阪大学）

日本教育工学会研究会　https://www.jset.gr.jp/research/

次回研究会の参加募集　テーマ：教員養成・研修と ICT 活用／一般

●**テーマ**：教員養成・研修と ICT 活用／一般
●**日時**：2022 年 07 月 02 日（土）
●**会場**：信州大学 長野（教育）キャンパス（担当：森下孟）
●**募集内容**：

「令和の日本型学校教育」や「GIGA スクール構想」などを背景に，学校教育における学習者１人１台端末とクラウドを利用する学習環境が整いました．個別最適な学びや協働的な学びを実現するため，学校現場の先生方は，対面やオンラインにて ICT 活用教育のための様々な研修に日々取り組まれています．また，教職課程のなかに「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」が開設されるように，教員養成段階において ICT 活用指導力を高めることも求められています．学校教員が ICT 機器を活用して子ども達を指導することは，チョークや黒板を使うことと同様であり，教育実習や授業実践のなかで積極的に活用しその指導力を磨いていくことがますます期待されます．

そこで本研究会では，教員養成及び教員研修に着目して，ICT 機器を活用した教育の質向上や ICT 活用指導力の育成に資する実践，最新のテクノロジーを活用した教員養成及び研修における新たな取り組みなど，実践的・挑戦的な報告を募集します．また，従来どおり，教育工学一般に関する発表も募集します．

●**発表申込期限**：2022 年 05 月 09 日（月）　締切済
●**原稿提出期限**：2022 年 06 月 02 日（木）
●**参加登録期限**：2022 年 06 月 24 日（金）
●**原稿執筆**：

原稿は研究会 HP で配布されている原稿見本に従って，執筆をお願いします．

●**原稿提出**：

研究会 HP から「研究会マイページ」より，発表申込時に発行された「登録番号」「パスワード」を使用してご登録ください．なお，期限までにご提出いただけない場合は，自動的に発表取消となりますのでご注意ください．

●**参加登録**：

発表者も，発表されない参加者も，研究会 HP から「参加登録」ページでの事前の参加登録を必ずお願いします．研究会当日，現地会場の受付では事前参加登録を済ませておられるかを確認します．受付では参加費・発表費のお支払いには対応できませんので，お気を付けください．なお，参加登録と発表申込は異なります．

●**参加費支払**：

参加登録時に，1000 円／１回（会員・非会員共通），または 2000 円／年間４回「研究会参加年間パス」制度（2022 年度は申込締切済み）のいずれかのお支払いをお願いします．
※発表者にはこれに加えて発表費も必要です．詳しくは下の「研究会の運営について」をご覧ください．

●**参加方法**：

2022 年７月研究会は，現地会場での対面開催とします．「発表者」は現地会場で発表してください（オンラインでの参加・発表はできません）．発表しない「参加者」は現地会場での参加を基本としますが，オンライン（Zoom）による参加も可能です．

オンライン配信は，１台の固定カメラでスクリーンと発表者を写しますので，スライドの文字などが鮮明ではない場合があります．その他，ご不便をおかけする場合もありますが，ご容赦ください．また，オンライン参加者からの口頭による質疑応答も受け付けますが，現地での質疑を優先いたしますのでご承知おきください．その他，注意事項や Zoom 接続に必要な情報等については，研究会 HP または参加登録者へのメールにてお知らせします．

なお，今後の感染状況によって全員オンラインに切り替える可能性があります．

●**研究会報告集**：

冊子体は廃止しましたので，会場で配布されません．発表論文は J-STAGE で入手してください．

新型コロナウイルス感染症に関する研究会の対応について

2022 年度 7 月以降の研究会については現地開催として準備をすすめておりますが，「新型コロナウイルス感染症に関する本学会の対応について」（2020 年 04 月 02 日公表）に従い，感染拡大状況に応じて，研究会の現地開催を中止しオンライン開催とする場合があります．中止の場合は，随時本学会ホームページに掲載いたします．イベント前に，必ず本学会ホームページをご確認ください．また，2022 年度の研究会は現地開催の場合でも，その様子をライブ配信するなどのオンラインでの視聴方法を試行的にご提供することを予定しております．視聴方法等は研究会ごとに異なる可能性もありますので，事前に研究会 HP のご案内をご参照いただき，ご参加ください．

研究会の運営について

研究会報告集の冊子体の廃止および J-STAGE でのオープンアクセス化に伴い，研究報告集代や年間購読制度は廃止し「参加費」「発表料」を以下のように設定することになりました（2021 年 02 年 03 日告知）．

●参加費：a か b のいずれかが必要です．

（a）1000 円／１回（会員・非会員共通）

（b）2000 円／年間４回「研究会参加年間パス」制度（会員のみ）

※年間パスについて：当該年度内の４回の研究会のすべてに参加可能になります．年度当初に年会費などとともに会員専用ページなどで支払いをしていただく必要があります．なお，2022 年度の年間パスの申し込みは 04 月 30 日で締め切りました．

※連名の発表において，当日参加されない著者の方の参加料は不要です．

●発表費：参加費に加えて，発表者には以下の発表料をお支払いいただきます．

（会員）1000 円／１回　（非会員）2000 円／１回

※連名発表の場合，第一著者が発表費をお支払いください．発表費は，第一著者が会員または非会員であるかに応じて決まり，発表１件につき１名分（１回分）の支払いとなります．連名者は発表費の必要はありません．一方，参加費は当日参加される人すべてにお支払いいただきます．

国際学会 ICoME 開催のご案内

ICoME（International Conference for Media in Education）第 20 回目はハワイ大学にて開催いたします．ICoME は，日本教育メディア学会（JAEMS），韓国教育情報メディア学会（KAEIM），中国教育工学会（CAET），アメリカ TCC（Teaching, Colleges & Community）の連携によって，開催される国際学会です．

ICoME2022 は，オンラインでの開催となりました．コンカレントセッションの申込みは終了していますが，大学院生・学部生向けのラウンドテーブルセッションの申込みは 5 月 25 日まで可能です．ご発表されない方も，ぜひ当日の参加をご検討ください．

■日程：2022 年 08 月 03 日（水）～04 日（木）※米国ハワイ時間（GMT-10）
■場所：オンライン開催
■ウェブサイト：https://2022.icome.education/
■今後のスケジュール（※すべて米国ハワイ時間 GMT-10）
2022 年 05 月 25 日：ラウンドテーブルセッションでの発表者の概要提出期日
2022 年 06 月 01 日：ラウンドテーブルセッションでの発表採否の通知
2022 年 06 月 30 日：全ての発表セッションの原稿提出期日
2022 年 07 月 01 日：参加申し込み締め切り
2022 年 08 月 03～04 日：ICoME2022（オンライン開催，時間は米国時間）
■プレゼンテーションの種類
（1）コンカレントセッション（一般口頭発表）
研究者および実践者による一般口頭発表です．概要を提出いただき，発表の採否が決定されます．概要が採択された場合，４～８ページの原稿提出を予定しています．なお，ご提出いただいた原稿の中から優れたものを，the International Journal for Educational Media and Technology 掲載のために推薦させていただくことがあります．
（2）ラウンドテーブルセッション（学部生・大学院生向け研究発表）
・１つセッションにテーマが類似する複数の発表者がアサインされ，カジュアルな雰囲気で発表，ディスカッションを行います．概要を提出していただき，発表の採否が決定されます．概要が採択された場合，２ページの原稿提出を予定しています．
・優秀な発表に対し，Young Scholar Award が授与されます．学部生，大学院生の英語発表や海外の研究コミュニティ参加への機会となりますので，積極的に参加を推奨ください．
■参加費（予定）
オンライン開催になったことに伴い，現在改めて検討中です．確定次第，ICoME2022 のウェブサイトにてお知らせいたします．

文責：岸磨貴子（明治大学），山本良太（東京大学）

SIG-CL

『学びにおける equity（公正）のあり方』開催報告

●日時：2022 年 03 月 21 日（月）13:00～15:00
●会場：JMS アステールプラザ中会議室（定員 10 名），Zoom（定員 100 名）　※ハイブリッド形式
●参加者数：対面 10 名，オンライン 27 名（合計 37 名）
●テーマ：学びにおける equity（公正）のあり方
●講演者：竹内身和（University of Calgary, Werklund School of Education 准教授）

諸外国では，様々なマイノリティやハンディキャップを持つ学習者に対する公正な教育・学習環境の提供に関する議論や研究，実践が進んでいます．本邦でも近年インクルーシブ教育に注目が集まっていますが，外国人子女，少数民族，ヤングケアラーなど多様な学習者に対する公正・公平な学びについて考える必要があり，教育工学の研究・実践でも例外ではありません．

本研究会では，近年世界で重要視されている“Equity and Justice（公正と正義）”をテーマに講演と議論を行いました．前半では，本テーマに関連する研究論文を多数出版している気鋭の若手研究者である，カルガリー大学の竹内身和氏をお招きし，カナダと日本で様々な社会的マイノリティの置かれた状況に焦点を当て，彼らが数学的リテラシーをどのように発揮し，また育むのかに関する講演を行いました．講演では竹内氏が取り組んでいる質的研究が紹介され．カナダに住む異なる人種の子供たちが，テントを組み立てて一緒に過ごす活動を通じて，どのようなコミュニケーションが営まれ，学習活動が展開されるかについて，教員養成系学部生とともに分析する事例が報告されました．

後半では，１班５名程度のグループにわかれ，竹内氏の研究で用いている批判的ディスコース分析という談話分析の方法について概略を学んだ後，小グループに分かれて大学生のグループワーク中の談話を例に実際に分析する活動を通して，公正と正義に関する考え方や疑問点について対話を行いました．

ワークショップ後に実施したアンケートでは，「内容は満足のいくものでしたか？」「本イベントに参加したことが，今後の研究活動・教育活動・業務など，皆様の生活やお仕事に役立ちそうですか？」の２つの設問に対して，全回答者（12 名）から「とてもそう思う」との回答が得られました．具体的には，後半の批判的ディスコース分析ワークや，竹内氏が講演中に紹介した事例や参考資料などが，今後の教育・研究に役立つとのコメントが寄せられました．

なお，竹内氏による講演を含む本研究会の記録映像は，後日下記の SIG-CL 情報共有ページにて公開予定です．

・SIG-CL 情報共有ページ（https://sites.google.com/view/JSETsig06/ ）
・SIG-CL Facebook ページ（https://goo.gl/E2ZSwT ）※旧 SIG-06 から継承

文責：北澤武（東京学芸大学）・大﨑理乃（武蔵野大学）・
大浦弘樹（東京理科大学）・望月俊男（専修大学）

SIG-CL

『国際学習科学学会 広島大会』ローカルイベントのお知らせ

国際学習科学学会（International Society of the Learning Sciences）の 2022 年度年会は，広島国際会議場を中核地点としてオンラインで開催されます．
（ https://2022.isls.org/ ）

一般の発表の募集は既に終了していますが，日本の皆さん（と，海外から日本に是非来たいと考える方々）と，広島でローカルイベントを実施します．この機会に是非，ご参加ください！また，新メンバー歓迎セッションもオンラインで行われます．

【開催案内】

●日時：2022 年 06 月 06 日（月）～06 月 10 日（金）（参加申込締切：2022 年 05 月 31 日（火））
●会場：広島国際会議場 ダリア（広島市中区中島町 1-5）
●テーマ：International Collaboration toward Educational Innovation for All: Overarching Research, Development, and Practices
●内容：いずれも日本語での参加も可能です．主要な部分には逐次通訳を行います．

1. Lunch for Reflection（午前中に聞いた発表を互いに共有しながら，振り返ります）
2. 90 分ショートツアー（原爆ドーム，平和記念資料館，広島城／１日１箇所訪問します）
3. ワークショップ「平和と公正の実現に向けて学習科学は何に貢献できるのか」

最終日に，ショートツアーの学びをもとに，上記の話題についてワークショップを行います．なお，午前セッション（08 時～13 時 30 分）と午後セッション（16 時～19 時 30 分）には，会場でオンライン参加することが可能です．その他，学習科学研究者同士の交流も行うことを予定しています．
●参加費：調整中です．追って下記のローカルイベントの告知サイトでお知らせします．
●参加申込方法：
ローカルイベントの告知サイト（ https://jsetsig06core.wixsite.com/isls2022-events ）（日英両併記のページ）の How to Apply ページから，お申し込みください．追って，電子メールで情報を提供させて頂きます！

文責：望月俊男（専修大学）

一般社団法人日本教育工学会第 19 期第 12 回理事会報告

日時：令和 04 年 02 月 12 日（土）14:40～16:15
場所：「JAPET&CEC 会議室」と「遠隔会議システム（Zoom）」
出席：理事　堀田龍也会長，美馬のゆり副会長（遠隔），村上正行副会長，室田真男副会長，山内祐平副会長（遠隔），赤倉貴子（遠隔），緒方広明（遠隔），小柳和喜雄（遠隔），重田勝介（遠隔），瀬戸崎典夫（遠隔），永田智子（遠隔），西森年寿（遠隔），根本淳子（遠隔），姫野完治（遠隔），益子典文（遠隔），益川弘如（遠隔），松河秀哉（遠隔），森田裕介（遠隔），森本康彦（遠隔）
監事　吉崎静夫（遠隔）
総務委員会　伏木田稚子

（合計 21 名）

議題１　前回の理事会記録の承認について
一般社団法人日本教育工学会第 19 期第 11 回理事会記録が提案され，承認した．

議題２　新入会員の承認について
会員の移動状況が報告され，承認した．2022 年 02 月 12 日現在の総会員数は 3,389 名となった．

各種委員会から
議題３（編集）
・編集委員会
論文誌編集進捗状況ならびに特集号 46 巻 4 号，46 巻 Suppl.号の編集委員と論文誌発行スケジュールが報告された．ITEL における剽窃チェック（Similarity Check）の導入が提案され，承認した．

議題４（戦略・国際）
・重点活動領域委員会
研究成果に対するクレジットが提案され，承認した．2022 年春季全国大会において，重点活動領域の概要と今後の計画に関する企画セッションを行うことが報告された．
・企画戦略 WG
会員向けアンケートが提案され，承認した．美馬副会長より，質問項目の追加・修正については，02 月 28 日までに連絡するとの説明がなされた．退会者向けアンケートが提案され，承認した．

議題５（会員サービス）
・大会企画委員会
2021 年秋季全国大会の参加者数，参加者アンケート，収支報告の説明がなされた．大会企画委員会（秋）の委員の交代，2022 年秋季全国大会一般セッションのプログラム編成方法（対面とバーチャルセッション（オンデマンド）の並行実施）が提案され，承認した．シンポジウムのテーマの方向性が説明された．
2022 年春季全国大会の日程ならびに準備状況が報告された．
・研究会委員会
研究会の参加実績，今後の研究会の実施，規程の変更について報告がなされた．2022 年度，2023 年度研究会の実施形態が提案され，承認した．

議題６（広報・顕彰・総務）

・総務委員会

名誉会員に関する規程が提案され，承認した．2021 年事業報告および収支決算が提案され，承認した．

2022 年 02 月 10 日（金）に監査が行われたことが報告された．2022 年事業計画および収支予算が提案され，承認した．

・選挙管理委員会

代議員選挙・役員候補者選挙関連規程について説明がなされた．一般社団法人役員等候補者選挙規程（案）が提案され，承認した．一般社団法人日本教育工学会役員等候補者選挙実施細則（案）が提案され，承認した．一般社団法人代議員選挙規程（案）が提案され，承認した．般社団法人日本教育工学会代議員候補者選挙実施細則（案）が提案され，承認した．総務担当の姫野理事を選挙管理委員会に追加することが提案され，承認した．

1.　今後の学会運営について

三会堂ビルの建て替えに伴う JSET 事務所移転の進捗状況が報告された．

2.　その他

(1) 協賛依頼について，承認した．
(2) 郵送物について，確認した．
(3) 今後の理事会日程を確認した．

一般社団法人日本教育工学会第 19 期第 13 回理事会報告

日時：令和 04 年 03 月 18 日（金）17:00～17:45
場所：遠隔会議システム（Zoom）
出席：理事　　堀田龍也会長，美馬のゆり副会長，村上正行副会長，室田真男副会長，山内祐平副会長，赤倉貴子，岩﨑千晶，小柳和喜雄，瀬戸崎典夫，高橋純，永田智子，西森年寿，根本淳子，姫野完治，益子典文，益川弘如，松河秀哉，望月俊男，森田裕介，森本康彦
　　総務委員会　池尻良平，伏木田稚子
　　大会実行委員　泰山 裕

（合計 23 名）

議題１　前回の理事会等議事録の承認について
一般社団法人日本教育工学会第 19 期第 12 回理事会記録が提案され，承認した．

議題２　新入会員の承認について
会員の移動状況が報告され，承認した．2022 年 03 月 18 日現在の総会員数は 3,405 名となった．

各種委員会から
議題３（編集）
・編集委員会
論文誌編集進捗状況ならびに特集号 46 巻 4 号の論文誌発行スケジュール，46 巻 Suppl.号の論文誌発行スケジュールが報告された．

議題４（戦略・国際）
・企画戦略国際委員会
企画戦略国際委員会の委員交代が提案され，承認した．
・企画戦略 WG
会員向けアンケートの実施期間・実施方法が提案され，承認した．退会者向けアンケートの内容・実施期間・実施方法が提案され，承認した．

議題５（会員サービス）
・大会企画委員会
2022 年秋季大会の実行委員会の委員が報告された．2022 年春季大会の大会スケジュールや企業による協賛の状況等について報告があった．大会の準備状況等の報告があった．

議題６（総務・広報・選挙管理）
・広報委員会
学会 Web サイトおよび会員ページの改修に関わって，管理サポート費等が追加でかかる旨の提案があり，承認した．ニューズレター257 号までの発刊スケジュール等が提案され，承認した．
・総務委員会
教育関連学会連絡協議会第 10 回総会・シンポジウムの内容が報告された．「第 25 回視聴覚教育総合全国大会第 72 回放送教育研究会全国大会 合同大会」が報告された．「2021 年度教育の情報化推進フォーラム」開催方式変更が報告された．「e ラーニングアワード 2021 フォーラム」終了が報告された．
・選挙管理委員会
８月に行われる代議員および理事選挙に関して，会員推薦の取組みを実施している旨，報告があった．

その他

(1) 協賛依頼について，承認した．

(2) 郵送物について，確認した．

(3) 今後の理事会日程を確認した．

一般社団法人日本教育工学会第 38 回代議員総会議事録

日 時：2022 年 03 月 20 日（日）13:00～13:35
場 所：オンライン（Zoom）
出席役員　理　事　堀田龍也，美馬のゆり，村上正行，室田真男，山内祐平，赤倉貴子，岩崎千晶，小柳和喜雄，重田勝介，瀬戸崎典夫，高橋純，永田智子，西森年寿，姫野完治，益子典文，益川弘如，松河秀哉，望月俊男，森田裕介，森本康彦
　　監　事　鈴木克明，吉崎静夫

（合計 22 名）

出席代議員数 17 名　委任状 1 通　代議員総会における議決権の総数 18 個
上記のとおり定足数に足る代議員の出席があったので，定刻に開会した．

1. 第 1 号議案：2021 年度事業報告及び収支決算承認の件
   2021 年度事業報告及び収支決算の説明と報告が行われ，第 1 号議案は満場一致をもって承認可決された．

2. 第 2 号議案：2022 年度事業計画及び収支予算案承認の件
   2022 年度事業計画及び収支予算案の説明と提案が行われ，第 2 号議案は満場一致をもって承認可決された．

3. 第 3 号議案：事務所移転に伴う定款の改訂について
   事務所移転に伴う定款の改訂について説明と提案が行われ，第 3 号議案は満場一致をもって承認可決された．

学会ホームページの更新情報について

広報委員会

研究会の受付開始や論文募集などの学会の最新情報は，Facebook や Twitter で受け取ることができます．学会 SNS にご登録のうえ，学会ホームページの積極的なご活用をお願い申し上げます．

Facebook　@jset.kouhou.update

Twitter　@JSETkoho_update

JSET ホームページ（https://www.jset.gr.jp/ ）

SNS は，学会ホームページの右上の各アイコンからも登録可能です．

登録状況（2022 年 04 月 27 日現在）　Facebook 68 人，Twitter 136 人

文責：登本洋子（東京学芸大学）

新入会員（2022 年 02 月 02 日～2022 年 03 月 07 日）

入会申込者　32 名（正会員：19 名，准会員：３名，学生会員：10 名）

正会員（19 名）

田路千尋(千里金蘭大学)

齋藤大輔(早稲田大学)

シングクムドビラハム(京都大学)

菊地孝枝(東京都教育庁)

楊霊琳(関西学院大学)

金子研太(九州共立大学)

南伸昌(宇都宮大学)

堀さやか(大阪大学大学院)

蟻末淳(国際交流基金カイロ日本文化センター)

大和田秀一(酪農学園大学)

谷原英利(株式会社グロービス)

植田弘子(神戸大学)

佐々木健太(学校法人グロービス経営大学院)

徳岡大(高松大学)

小高葉子(米国国務省日本語研修所)

小澤雄生(京都教育大学)

宮本友弘(東北大学)

青谷章弘(広島経済大学)

駒﨑知永理(東京大学)

准会員（３名）

伊藤友佳子(玉川聖学院)

石井卓之(帝京大学)

板橋嶺(株式会社 Rebuild Factoryz)

学生会員（10 名）

梶本秀樹(鳴門教育大学大学院)

大庭マリア鈴音(東京工業大学)

安田隆(放送大学大学院)

萩原純一(上越教育大学教職大学院)

早房拓実(千葉大学)

平見真希人(広島大学)

小西凌(三重大学)

徳永恵理子(熊本大学大学院)

椎谷由佳(上越教育大学教職大学院)

田嶋晶子(熊本大学大学院)

以上

◎学会日誌

２０２２年０５月～２０２２年０９月

・ ２０２２年０５月２８日（土） 研究会「AI・ロボットを活用した教育／一般」（オンライン）
・ ２０２２年０７月０２日（土） 研究会「教員養成・研修とICT 活用／一般」（信州大学 長野（教育）キャンパス）
・ ２０２２年０９月１０日（土）～１１日（日）＜全国大会＞ ２０２２年秋季全国大会(カルッツかわさき & オンライン)

◎国際会議の案内

２０２２年０５月～１２月

・iLRN 2022
https://immersivelrn.org/ilrn2022/
(2022, 05/30 – 06/04, Online/Vienna, Austria)
・AIED2022
https://aied2022.webspace.durham.ac.uk/
(2022, 07/27 – 31, Online/Durham University, UK)
・ICoME2022
https://jaems.jp/icome/
(2022, 08/03 – 04, Online/University of Hawaii, USA)
・WCCE 2022
https://wcce2022.org/
(2022, 08/21 – 24, 広島国際会議場)
・ICCE 2022
https://icce2022.apsce.net/
(2022, 11/28 – 12/02, Kuala Lumpur, Malaysia)
・TALE 2022
https://www.tale2022.org/
(2022, 12/04 – 07, The Hong Kong Polytechnic University)

お問い合わせ先

学会についてのお問い合わせは,
下記のWebフォームから
お願いいたします.

https://www.jset.gr.jp/contact/

広報委員会

担当副会長　：室田 真男（東京工業大学）
広報委員長　：高橋 純（東京学芸大学）
広報副委員長：光原 弘幸（徳島大学）
幹事：深見 俊崇（島根大学）
幹事：脇本 健弘（横浜国立大学）
委員：佐藤 和紀（信州大学）
島田 希（大阪市立大学）
中村 恵（幾央大学）
登本 洋子（東京学芸大学）
E-mail：kouhou@jset.gr.jp

発行所●
一般社団法人日本教育工学会事務局
〒107-0052
東京都港区赤坂1-9-13
三会堂ビル8階
TEL 03-5549-2263
FAX 03-5575-5366
E-mail：office@jset.gr.jp
https://www.jset.gr.jp
郵便振替00160-4-452130

日本教育工学会ニューズレター
No. 253
2022年5月19日

発行人●会長 堀田 龍也（東北大学）